

兵庫県における大・中型野生動物の 生息状況と人との軋轢の現状

Current status of wildlife and agricultural damage in Hyogo Prefecture

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 編集



兵庫県立人と自然の博物館
自然環境モノグラフ
3号 2007年3月

刊行にあたって

人と自然の博物館「自然環境モノグラフ」シリーズの第3号を刊行できる運びとなった。地域に根ざした博物館として、多くの県民の皆さんにご協力いただきながら推進している調査結果を、このような形で公表できることは、喜びに堪えない。

第3号のテーマは「兵庫県における大・中型野生動物の生息状況と人との軋轢の現状」である。シカやクマ、イノシシ、ニホンザルなどの農林業被害や人身被害、絶滅危惧など、人と野生動物の軋轢は、今、全地球的に大きな問題になっている。また、日本列島でのアライグマ、ヌートリアなどの外来生物の分布拡大と繁殖も、人の生活だけでなく地域固有の生態系に大きな影響を与える脅威となっている。

このような現状の中で兵庫県は、平成19年4月に丹波市青垣町に森林動物研究センターを開設し、これらの課題に適切に対応していくための体制作りを目指す。これまで人と自然の博物館では、新センターの設立を待てない緊急課題に関する調査や行政支援、技術支援を行ないながら、センターをはじめとする野生動物の保全と管理の体制づくりに参画してきた。このモノグラフは、その成果の一部だと言える。

ここで提供させて頂くデータは、まさに県内の農業者や狩猟者の皆さんが、実際に現場で見られている実情を報告して頂き、人と自然の博物館でとりまとめたもので、狩猟報告のべ10万件、農業者からの報告のべ5万件を集計した成果である。報告を頂いた皆様をはじめ、とりまとめにご協力頂いた市区町の担当者や県の担当者の皆様に、心からお礼を申し上げますと共に、このモノグラフが、兵庫県の人と野生動物の調和のとれた共存や、多くの県民の間での課題の共有や合意形成に活かされることを願ってやまない。

平成19年 3月

兵庫県立人と自然の博物館 館長

岩 槻 邦 男

目 次

第1部 調査の概要

はじめに	2
兵庫県の地勢と気候	3
調査方法	4
調査結果の概要	8

第2部 図版編

《写真でみる兵庫の野生動物》	14
《野生動物の生息と被害の動向》	16
ニホンジカ (シカ科)	16
ニホンイノシシ (イノシシ科)	20
ニホンツキノワグマ (クマ科)	24
ニホンザル (オナガザル科)	25
ホンドタヌキ (イヌ科)	25
ホンドキツネ (イヌ科)	26
ニホンノウサギ (ウサギ科)	26
ニホンアナグマ (イタチ科)	27
イタチ (ニホンイタチ・チョウセンイタチ) (イタチ科)	27
ホンドテン (イタチ科)	28
ヌートリア (ヌートリア科)	29
アライグマ (アライグマ科)	30
ハクビシン (ジャコウネコ科)	31
《被害対策》	32

第3部 データ編

＜出猟報告・狩猟者アンケート＞	34
＜農業集落アンケート＞	42

引用文献	86
------------	----

